

復 命 書

静政会

平成 18 年 11 月 24 日

会長 伊東稔浩様

議員名 佐藤成子

下記の通り政務調査費による視察を実施しましたので報告いたします。

1. 日時 平成 18 年 11 月 8 日(水)～11 月 15 日(水)
2. 視察国 ロシア（サンクトペテルブルグ市
モスクワ市・プーシキン市）
- 3 視察内容 ロシア・エルミタージュ美術館芹澤展
市議会訪問・日本語公立小中学校訪問
プーシキン・エカテリーナ宮殿
モスクワ・国立トレチャコフ美術館
世界遺産赤の広場・クレムリン
市内家庭訪問他

《はじめに》

私は、芹澤美術館友の会の発会の時から関わり、理事をしております。いつも美術館では、パリでの美術展が語り草として語られておりました。芹澤の“風のタペストリーがシャンゼリゼ通りを飾ったということです。今回仲間も参加するかと楽しみにしておりましたが、議員のみになり残念でしたが、皆さんに状況報告をさせていただくつもりです。昨年のエルミタージュ美術展の人出のすごさは記憶に新しいところですが、この芹澤展、まさに日本的な内容がどれだけロシアの人々に受け入れられるか興味のあるところでした。また、ソ連崩壊後どんな様子なのか、人々の暮らしぶりはどうなのか？本場のエルミタージュ美術館はどのくらいの規模のものなのか・ロシア皇帝時代の宝飾品とはどんなものなのか？いろいろと、見たい知りたいを抱えての訪露でした。

日程にしたがって視察先の報告をいたします。

11月9日(木)

サンクトペテルブルグ市議会・表敬訪問

サンクトペテルブルグ・オロフク市議会議長とティボスキー国際課長が対応してくれました。宮殿みたいな内装にびっくり！大阪市と姉妹都市を結んでいる。50年になるが、先日、日露就航150周年を広くお祝いしたところ。

ロシア連邦人口480万人。111の議会議員団体があり、そのひとつの町としてサンクトペテルブルグがある。

政府は20区に分かれている。各地区に政府の機関がある。

89の地方があり、それぞれ地方の独自の法律がある。もちろん、その地方の基本はロシア連邦の法律に基づいている。

条例や法律は、街の名手がサインすると動く。

市議会議員選挙は、4年に1回。毎週水曜日議会開会。

議員はビジネスはきんじされているが、専門の研究や教育関係は許可されている。副議長は教授だし、政治経済の専門家が多い。

50人の議員のうち女性は3人。ただし知事・市長は女性。さすが！

月給 1000 ドル。日本は 5000 ドル。そちらに移動したいとジョーク。
市長の大きな仕事は、大きなお金を中央政府から持ってくる。
サンクトペテルブルグ市は、3 年の間に、必要経費、資金の増大 3 億円。
静岡市議会の概要は団長の安竹副議長が説明。和気藹々であった。

日本語教育小中学校《バラの学校》

広い道路から少し奥まったところにあり、ここが学校とは思えないような外観。校門、看板など無い。

学校の特徴で、日本語に力を入れ教育している唯一の学校。学校のあちこちに、日本文化が見受けられる。屏風絵の額縁や、箱庭、習字の掲示日本語の案内などなど。

授業風景を参観したが、とても上手に教材が研究され使われていた。それ・これ・あれなど、先生の質問に全部日本語で応えている姿に感動した。

いつもこの授業の成果を発表する機会をさがしているとのことで、この日は、親たちも来校して発表していた。日本語での歌、日本語での、赤頭巾ちゃんの劇には驚かされた。

こんなに小さい頃から日本語をマスターしたら、将来親日家が多く出るのではないかと思う。日本人より純粋な日本語を学んでいるように思えた。企業として、トヨタ自動車や日産自動車が進出してきているとのことだが、将来いろいろ期待できるのではないかと思う。

11 月 10 日（金）

エルミタージュ美術館事前視察

ロシアが誇る歴史的文化遺産の殿堂。歴代皇帝の御所だった冬宮を本館として、4 つの建物から構成されている。膨大なコレクションは 300 万点におよぶ。館内で公開されている展示品は、収蔵量の数%に過ぎない。街の中心ネバ川のほとりにあり、女帝エカテリーナ 2 世が、フランス語で、「隠れ家」と名づけた。

世界各地から、年間 150 万人が訪れるという。

天井を見たり、壁を見たり、床を見たり、すべてが装飾された芸術品。
ラファエロの回廊などなど、ただただ圧倒され続けた。

エルミタージュ芹澤展 記者会見 開会式《日本の色彩 芹澤けい 介の世界》

日本伝統美のひとつである染色工芸の世界をロシアの人々やこの美術館を訪れる各国の人々に鑑賞頂いて、静岡文化と静岡の名前を広く世界に発信していくための開催

人間国宝芹澤は、沖縄の紅型の美しさに強い衝撃を受け、紅型と和染を深く学びながら、図案・型彫り・染めまで、一貫して行う独自の型染の世界を形成した

着物・屏風・暖簾など芹澤の代表作 82 点を展覧

芹澤作品の全貌を知ってもらうためにさまざまな作品を満遍なく選択

日本の色彩のテーマに沿って、美しい色彩のものを重点的に選択

代表例は、「寿の字のれん」「鯛泳ぐ文着物」「四季曼陀羅屏風」で、コンディション、クオリティ申し分ない作品

エルミタージュ・ビオトロフィスキー・ミハイル館長と小嶋善吉市長
白鳥誠一郎学芸員で記者会見

開会式・テープカット後開会された。開館を待つ大勢の人でにぎわう早速来館していたロシアの親子に、着物を知っているかと訊ねたら、知っているとの答えが返ってきた。ご覧になっていかが？と続けたら、すばらしい！色がきれい！とのことだった。（もちろん通訳してもらって）ヴィリンバホフ副館長や学芸員とともに、美術館内でウエルカムレセプションが行われ、夜は宿泊のホテルで、返礼の夕食会が行われた一人でも多くの人に来館してもらいたいと思った。先に訪問した、バラの学校で、この展覧会のことを知らなかったので、大いに宣伝したし、お土産に持っていった“食べるお茶”は、美術館関係者にも大好評

サンクトペテルブルグ市内視察

サンクトペテルブルグの創建は、1703年ピョートル大帝がロシア近代化の要としてバルト海に開かれた港と要塞を築いたことに始まる。1712年ロシア帝国の

首都がモスクワから移され、以後、西欧に開かれた窓として発展している。ロマノフ王朝の栄華と終焉・革命の理想とその挫折・包囲線の悲劇など歴史を知っている街だ。開放的でヨーロッパ的、そして文化芸術の街とも言える。保守的で政治経済の街・モスクワとは対照的だ。ロシア帝国の遺産に富み、古なるロシアの文化を知るのに絶好の地である。

ニコライ聖堂

公園のような広場に立つ大きな教会。水色の壁面と白い円柱黄金のドームが明るい輝きを放つ 18 世紀のロシア・バロック様式の建物。祀られている聖ニコライは、船乗りの守護神。この教会は、海の聖堂とも呼ばれている。壁面には、日露戦争の際、対馬沖で犠牲になった船員のプレートが埋められている。教会の入り口を示す 4 階建ての鐘楼が建てられている。

青銅の騎士・ピョートル大帝像

元老院広場（デカプリスト広場）に建つ青銅像。ドイツ出身であったエカテリーナ 2 世が、ピョートル大帝の後継者であることを誇示するために 1782 年に造られた。台座には、ロシア語とラテン語で、エカテリーナ 2 世からピョートル大帝への文字が記載されている。

ペドロパブロフスク要塞

1703 年から、捕虜スエーデン兵や農奴たちの大きな犠牲を出しながら木造で建設。後 1706 年から、石の城壁造りがはじめられ、より強固な要塞となったが、その役割は果たさず、政治犯などを収監する監獄として使われ、ロシア史の暗い影を背負った要塞と言える。

イサク聖堂 イサク広場

ロシア帝国の大聖堂として建設された世界で最も大きい教会。高さ 101.5m で、30 階建てのビルに等しく、遠くからでも輝いて見える。建設は 1818 年から始まり 40 年間で費やされて完成した。教会を飾る 300 以上のレリーフや彫刻がみごとだ。その前の広場がイサク広場。広場の中央には、ニコライ 1 世の馬上像が建っている。歴史的エピソードが台座に記されていた。

血の上の教会

1881年に皇帝アレクサンドル2世が暗殺された場所で、ここに建てられ教会で、物騒な名前の由来だ。珍しい純ロシア風建築で、完成まで25年がたついやされた。建物の隅々まで細かい装飾が施されている。素材もモザイクや彩色タイル、七宝タイル、大理石などさまざま。鮮やかな色の饗宴。白い雪に映えて一層美しかった。

旧参謀本部

宮殿広場の一角をなす建物。宮殿広場はロシア時代の豪華な建物に囲まれている。広場の北側は冬宮・エルミタージュ美術館があり、広場の中央には、アレクサンドルの円柱が建っている。1812年ナポレオン戦争の勝利を記念して造られた。南側にあるのが旧参謀本部。広場を半円形に囲む変わった建物で、アーチの上に、軍馬車に乗った勝利の女神の像が建っている。あちこちにある建物の上の彫刻はすばらしい。日本では考えられない。

11月11日(土)

プーシキン市 エカテリーナ宮殿

サンクトペテルブルグから南25キロのところ。18世紀はじめから19世紀はじめまで、ツァーリ(皇帝)の村と呼ばれ、歴代ツァーリの夏の宮殿があった。1750年代に建てられたロシアの代表的なバロック建築。ここを最も愛したエカテリーナ女帝の名前がついている。宮殿の中の煌びやかさもさることながら、庭園の彫刻も芸術作品だった。また、靴カバーをつけての入場は保存に心を配っていることがわかった。

11月12日(日)

モスクワ トレチャコフ美術館

11世紀から現代に至るまで、4万点以上のロシアとソビエト絵画・彫刻のコレクションを持ち、世界第1級の美術館と言われる。ギリシャ、ロシア正教の寺院内部を飾った聖像画・イコンは世界最大の所蔵数を誇る。

アンドレ・ルブリョーフの三位一体は有名だ。

11月13日(月)

クレムリン ウスペンスキー寺院

クレムリンにある多くの宮殿は、ロマノフ王朝初期まで、ツァーリ（皇帝）一族の居城だった。18世紀はじめに、ピョートル大帝（1世）によって、帝政ロシアの首都が、モスクワからサンクトペテルブルグに移された後も、戴冠式など国家的儀式はここで行われた。20世紀はじめ、ソ連邦が成立。社会主義政権の諸機関がクレムリンの宮殿に置かれた。ソ連邦閣僚会議が置かれていた宮殿は、現在ロシア連邦大統領府・官邸となって近づくことも出来ない。寺院広場に建つ最大規模を誇る重要な役割と権威を持つ壮麗豪華な聖殿である。ソ連邦時代は宗教活動は禁止されていた。聖堂は教会文化の歴史博物館だった。

赤の広場 武器庫

クレムリン城壁の前の大広場で、面積73000平方メートル。モスクワ最大。17世紀に美しい広場の意味の赤の広場の名前がついた。メーデーや革命記念日のパレードはここを中心に行われる。世界遺産に指定されている。

武器を保存する所として16世紀につくられたが、後に宝物殿になった。ピョートル大帝の衣服をはじめ、歴代皇帝の宝物、装身具、王冠、王座馬車など、金銀財宝が陳列されていて、目を奪われるものばかりであった。写真撮影禁止。目に焼きつけてきた。ため息の出るものばかり。

ロシアの家庭訪問

ソ連邦時代の個人住宅はすべて国家所有の高層住宅。現在はそれを払い下げられて生活している。

3DKくらいの広さ。家族5人。セカンドハウスと呼ばれる郊外に農場付の簡素な住宅を持っている人もいる。

クレープを焼いて待っていてくれた。クッキーもあり、午後ティー。

かなりこぎれいに部屋を飾っていたし、調度品もまあまあ。どれくらいのレベルなのだろうか？

雑感

街中は、クレーン車が目だった。あちこちで工事をしている。高層ビル計画もありそう。完璧に自由市場参入のロシア。うかうかしてられないぞ。。日本。

なんか出かける前は、いろいろと怖い国、不自由な国と思っていたが、観光中心の国策なのか、外国人に優しい。日本人観光客も多いのでしょう。日本語を使う店員も多かった。日本円も使えた。

日露戦争後の条約を守らない国、卑怯な国と先輩に聞いていたが、表面的には、かなり変わったと思える。まだまだ日本との間には政治的課題があるが、これからの芸術・文化的交流が、2 国間の距離を縮めていくのではないかと感じた。

まだ何処に行っても画一的な気もしないでもない。食事は、どこのレストランも大体同じメニュー。いささか飽きたりもしたし、お土産やさんもしっかり。琥珀とマトリョーシカだらけ。。（日本も同じかな？）

帰国後芹澤展の盛会の情報が届いた。とてもうれしいことだ。どのくらいの人出なのだろう？と思ったら、日本では当たり前、入場者のカウントはしていないのだそう。これもお国柄なのでしょうか？

また帰国後の出来事。KGB に関係のニュース。ロシア人ジャーナリストが、フランスで毒殺されたと言う。プーチンさんがかかわっているとかがいないとか？情報公開の無い国のことは、まだまだわからないことだらけなのかもしれない。